

OSFだより

第110号 2011(H23)年10月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@codacoda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舎の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

英雄の出現を待望する

会長 岡本 正

今月10月にNHKで「神様の女房」というテレビドラマをやっていた。「神様」とは、松下電器(パナソニック)の創業者松下幸之助のこと。小学校を4年で中退した彼が、結婚して大阪で小さな電器店を開いてからの創業の物語。昔を思い出しながら懐かしく見た。彼は日本の近現代史における経済界の最大の英雄である。

いま世界は大不況の中にある。世界の王者アメリカも傾き、ヨーロッパはギリシアの金融不安が解消されず、ユーロは大きく下落している。何とか安定しているのは中国ぐらいか。

原因はいろいろあるだろうが、第一に革新力が弱くなって改革の英雄が少なくなっていることではないか。

アメリカの開拓は、6百年ほど前のコロンブスに始まる。その後、1600年代にイギリスから旅立ったメイフラワー号をはじめとして、多くの冒険者が大きなリスクを覚悟の上で海を渡った。

この熱いチャレンジ精神は現在も脈々と続いている。その一つが、今、世界中で話題になっている「iパッド」「iフォン」の発売だ。IT分野の革命は想像もつかないものだ。

「iパッド」「iフォン」で知られるアップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏が先日亡くなった。怪物も癌には勝てなかったようだ。痛ましい。「英雄の死」に世界中が弔意を表した。

第一次産業革命はイギリスで起こり、これによって世界経済の様相が一変した。主役は手工業から動力へ変化し、イギリスがリードする。

次の革命の主役は石油と電気だ。自動車や石油製品

の開発によって、大量生産、大量消費の時代が訪れた。この革命でイギリス、ドイツ、フランスといったヨーロッパ諸国に加え、アメリカも世界の中心になっていった。

今、まさに起こりつつあるのは、第三次産業革命で、核になるのは情報の革新だ。21世紀はこれにより、大きく様変わりするのではないか。この革命では今はアメリカが大きくリードしているが、日本、韓国、台湾、中国等の東アジアの企業も善戦している。その代表の一つは韓国のサムソンであり、さらに現在世界一の太陽光発電も有望だ。これはオーストラリアへ留学した中国人留学生の創業したもので、今世界から注目されている。

第三次産業革命は今始まったばかりだ。私はこの革命はアジアが中心になるべきだと思う。世界史において、初めてアジアが世界をリードして大きく飛躍させる時代が来たのだ。

「国(企業)は一人によって興り、一人によって滅ぶ」と言われる。アジア各国のこれからの盛衰はすべて皆さんの肩にかかっている。

アメリカの発展期には、フォード(自動車)・ロックフェラー(石油)・モルガン(銀行)・カーネギー(鉄鋼)などの巨人が世界をリードした。

戦後の日本でも、ホンダ・ソニー・京セラ・イオン等の零からスタートした企業が先導してきた。私はアジアの各地から世界を動かす企業が次々と出てくることを切望する。言いかえるとIT産業の英雄であったジョブズ氏の死を乗り越えて、情報革命をリードする英雄がアジアから出てほしい。

みなさんのバイタリティーが世界を変える力になってほしい。

地球温暖化、人口の爆発的増加等、世界には今、決断を迫られている深刻な問題が山積されている。これから私たちはどこへ進んだらいいのか。人類のけん引役としての真の英雄の出現を期待する。

グリボスタン・ユスフ(奨学生) 中国(新疆ウイグル)


千葉大学 医学薬学府先端応用外科学専攻

留学生活を通じて自分で成長したと思えること

私は、ウイグルで生まれました。子供のころから将来どこか外国に留学することが夢でした。その結果美しい国日本に来ることは私にとって運命でした。

来日する前に私は生まれた都会ウルムチから一度も離れたことがなかったため、父母の側から離れることはすごく恐怖でした。出発当日空港で父母と泣きながら別れ、飛行機の中でも涙がずっと止まりませんでした。次の日から自分にとって新たな日本での人生が始まりました。毎日きれいな街、優しい人々を見ながら学校に通ったので疲れは感じませんでした。研究室につくと忙しくなりました。研究結果がなかったため、最初はいろいろ悩んでいましたが、先生が真剣に教えて下さったお陰で今まで勉強を続けることが出来ました。

留学することが夢でしたが、その後何をするか私はあまり考えていませんでした。2年間留学生活を通してあっという間でしたが、留学する前と留学した後で、自分が変わりました。留学する以前の自分は、将来について何の目



標も持たず、何をするにもやる気がなく、ダラダラした生活を送っていました。自分でしっかりしようと思っても、思うだけで行動に移さなかったりとか、非常に甘たれていました。そんな甘たれた自分を留学を通して変えることができました。日本人の「一生懸命頑張る精神」の影響で現在自分の将来について夢を持つこと、夢を叶えるために頑張ること、諦めないことを心から思えるようになりました。日本に留学して正解でしたと本気で思っています。現在既に学会発表しており、共同研究者として国際誌に一篇論文を発表したことから、私も出来ますよと自分のことを信じるようになりました。

新疆ウイグル自治区と日本国の距離が遠く、連絡手段、言葉、文化や習慣などの違いから、日本との交流の面では想像以上の時間や手間がかかり、展開する内容はまだまだ遅れている状況です。これらの現状から、私は将来日本で学んだ知識や経験を生かし、日本の医学界を初め、各分野の方々の力を借りて、人材交流に取り組み重要な架橋になりたいと考えています。

張 笑(奨学生)

中国(河北省)


早稲田大学 アジア太平洋研究科国際関係専攻

広島への旅

今年の夏休み、岡本国際奨学交流財団のおかげで、広島への旅行ができました。私は大学の集中講義があったため、授業を終わってから、8月5日の午後、一人で東京駅からJR山陽新幹線に乗って広島に向かいました。日本に来て8年間が経ったけれども、今回、初めて首都圏を離れて遠いところに行くので、とても楽しみにしていました。

広島という名前を聞いたら、まず、私の頭の中には、第二次世界戦争のことを思い出します。小学校のころから、歴史の授業で1945年8月に、アメリカは日本の広島と長崎に原子爆弾を投下しました。そのことによって、日中戦争が終了し、第二次世界大戦もついに終結したと習いました。この歴史は皆さんがご存知だと思いますが、実際、その時、広島にはどんなことがあったのか、広島に行かないとわからないと思います。

8月6日は、広島は被爆から66年の「原爆の日」を迎えました。広島市中区の平和記念公園で平和記念式が行われるので、その日の朝7時ごろ、佐野先生が私たち5人の留学生を連れて、ホテルから広島平和公園へ出発しました。午前中8時開始の記念式には、菅直人総理、政府関係者、潘基文国際連合事務総長、66カ国と欧州連合の代表が参列しました。式では、いろいろな方があいさつしましたが、私は「こども代表」の「平和への誓い」が一番印象的でした。「平和への誓い」朗読の最後のところで、「私たちは、



人間の力を信じています。人間は、相手を思いやり、支え合うことができます。人間はお互いに理解し合い、平和の大切さを伝え合うことができます。私たちは、今を生きる人間として、夢と希望があふれる未来をつくるために、行動していくことを誓います。」という声は私の心に響きました。一体、人間の正しい生き方、人間としてのやるべきこととはなんだろうと深く考えさせられました。

平和記念式が終了後、私たちは平和記念資料館を見学しました。そこは広島被爆前と被爆後の様子、被爆者の遺品や溶けた瓦などの被爆資料、被害の様子を伝える写真などを展示しています。その悲惨な写真を見て、原爆当時、広島の人々の苦しさ、戦争と核への恐怖を実感しました。むかし、教科書で勉強した歴史が目の前に再現されて、原爆の真実がわかるようになりましたが、気持はどんどん重くなってきました。

広島平和記念式に参加して以来、これから、世界が恒久平和できるよう祈る以外、私は留学生として、何ができるのかと考えました。来年、大学院を卒業して母国に帰ったら、政府機関に入りたいと思っています。もし将来、政府機関に入ったら、自分の留学経験及び広島での体験をキャリアの中で生かして、日中関係の友好、世界の平和に貢献できるよう頑張りたいと思います。

馬 躍(奨学生)

中国(遼寧省)

千葉大学工学研究科 人工システム科学専攻

平和への祈り

2011年8月の広島の旅は私にとって、「戦争」という言葉のキツさも苦しさも、「核」という言葉の怖さも悲しみも「平和」という言葉の重みも幸せも、初めて深く感じる旅となりました。

国は国境があるはずですが。愛も情も、平和も発展も国境はないと思いましたが、広島の人々は、世界には国境はなし、人間は同じ地球、同じ家との平和への強い思いを感じました。更に「平和」という意味が人と人の平和だけではなく、安芸の宮島で厳島神社の素晴らしさと迫力感を体験するとともに、宮島の平和な雰囲気の中に人間と動物、及び動物と動物の間でも平和を深く感じました。

広島は8月6日、「原爆の日」を迎えました。世界は追悼・敬意・内省として新たな決意を迎えます。平和年代で生まれた私たちは戦争の恐ろしさを全部テレビや教科書から勉強し、世界平和はあたりまえの事と信じていたのですが、原爆式典の参加を通じて私は、戦争をしてはいけないこと、及び国際平和と安全保障をすることの重要性と必要性を今まで以上に確信しています。

66年前、戦時中とはいえ、広島の市民はいつも通りに生活していました。8月6日午前8時15分に、一発の原子爆弾でそれまでの生活が根底から破壊されてしまいました。撃波がほとんど同時に襲いました。巨大な暴風圧が建築物の大半を一瞬に破壊しました。木造建築は全数が全壊しました。また強力な熱線により屋外にいた人は全身の皮膚が炭化し、内臓組織に至るまで高熱で水分が蒸発しました。苦悶の姿態の形状を示す「水気のない黒焦げの遺骸」が道路などに大量に残されました。

66年後の今、あの日犠牲となられた数万の男性、女性、そして子供たちを追悼するとともに、あのような惨事が二度と繰り返されないように、核兵器のない世界、戦争のない

世界を目標として、追求するべきです。戦争で家族を失い、友達を失い、家を失い、仕事を失い、人々のあたりまえの生活が奪われます。「生きて良かった」との言葉を聴いたら、人間は生きて、自分の夢や希望を持って、叶うまで努力することはどれほど幸せなのでしょう。私たち一人一人は、誰でも大切な存在ということを感じています。どうして人間は、たくさんの命を犠牲にして戦争をするのでしょうか。もちろん人間の力で戦争を起こさないようにできるはずですが、世界の未来を壊すのは恐らく人間かもしれませんが、世界の未来をつくるのも人間しかいません。人間の力を信じて、相手を思いやり、支え合い、お互いに理解し合い、平和の大切さを伝えあえば、美しい未来をつくることができます。

広島平和記念資料館で1945年8月6日8時15分に止まった腕時計がありました。この時計を初めて見たわけではないです。歴史のテキストで説明してもらいました。しかし、自分の目で本物を見たのは初めてです。これは歴史ではなくて残酷な現実です。過酷な事実です。あの日、あの時刻、あの事件、あの広島、あの世界、私は永遠に忘れられません。そして、2015年8月6日8時15分に世界はどうなっているのでしょうか。2025年8月6日8時15分に世界はどうなっているのでしょうか。2035年8月6日8時15分... 私は核兵器なし、戦争なし、夢と希望があふれる美しい未来をつくるために、頑張っていきます。そしてこの美しい未来を早く実現できるように祈ります。

広島平和記念資料館の出口で、平和へのメッセージのところで、私は合掌して祈って、心をこめて、愛をこめて、自分の手で「一つ地球・一つ家」と書きました。それは夢の世界です。それは世界の夢です。それは私が望む世界になります。



王 竹魂(奨学生)

中国(福建省)

早稲田大学 商学研究科 商学専攻

「仕事はみんなで助け合ってやるもんだ」

2008年11月、私はある飲食店でアルバイトを始めました。人生初のアルバイトです。私はそこで、チームワークの大切さを教わりました。

三回の研修を経て、私はドリンクバーを任されました。私が伝票どおりにドリンクを作ってホールでの料理テーブルに持っていき、ホールスタッフがそこからお客さんの所に持っていくという役割分担です。

私は昔から、何でも自分一人で解決しようとする癖があり、そんな癖がアルバイトの時にも滲み出てきました。

一刻も止まらずどんどん出てくる伝票に向かって、私は必死でドリンクを作っていました。しかし、いくら作っても終わりが見えなかったです。それでも人に助けを求めず、一人でひたすら作り、できたものを小走りでホールまで運んでいました。あまりに焦っていたので、躓いてしまい、お盆に載っていた瓶ビールを落としてしまいました。大きな音とともに、ビールが床一面を濡らしました。

「大丈夫？怪我はない？」ある先輩の優しい声が聞こえます。私は涙が出そうになりました。

「すみません」と謝る以外、何も言えなかった私を、先輩は笑顔で「Don't mind! Don't mind!」と励ましてくれました。そして、裏からほうきを持ってきて掃除を始め、その後ドリンクバーに来て、こう言いました。

「ごめんね、気づいてあげなくて。今手伝うね」と。

「でも、私の仕事だから、自分で...」

「何を言ってるの。仕事はみんなで助け合ってやるもんだよ。自分一人で抱え込まないで、遠慮なくみんなに助けてもらおうよ。今度他の人が大変な時は王さんが助けてあげればいいのよ。」

先輩のその言葉は、今も忘れられません。

それから、私はみんなと助け合って、どんな繁忙さも乗り越えてこられました。

一人での勉強に明け暮れた私が、日本でのアルバイトを通じて成長したと思います。



トピックスTopics!

天高く 食欲の秋 みんなでバーベキューを!

10月9日、会館生・家族寮生・奨学生が集まってバーベキューを楽しんだ。みんなが揃うのは今年初めて。秋晴れの空の下で、なごやかな輪がいくつもできていた。



まずは、みんなで餃子の準備



インド料理の夜

9月8日、奨学生の例会を近くのインド料理料理の店で実施。おいしいカレーをおなかいっぱい食べ、夏休みの思い出話などでにぎやかに過ごした。



OB 消息

9月13日、フェリー君（H13 会館生、インドネシア）が結婚した。お幸せに!

9月26日、張瀛さん（H21年奨学生、中国）が来日し、財団に寄ってくれた。中国で新聞社に就職が決まったとのこと。よかった、がんばってほしい!

10月17日、エンクザヤさん（H17 奨学生、モンゴル）が来団。9月に博士課程を無事終えて、卒業証書を持参してくれた。おめでとう! 心から祝福したい!

10月16日、稲毛区民祭に参加。会館生のエルさん、ソビーさん、ソン君、フォン君が「世界のお茶を楽しむ」コーナーで、声をからして頑張ってくれた。天気に恵まれ、楽しい一日となった。



エンクザヤさん

張瀛さん



台風の中での例会

9月21日、会館生の久しぶりの交流会は台風のためにだいなし。家族寮だけの会になったが、新入居のオマル、カリ夫妻の歓迎会になり、楽しい会になった。みつわ台会館からもメンディ君とソビーさんが風雨のなか、参加してくれた。

家族寮に新しいメンバー

9月15日、家族宿舎にオマルさん、カリさん（中国、ウイグル地区）夫婦が入居。これから仲良くやりましょう。

OSF 2011 年度後期行事予定	
10月9日	会館生、奨学生合同バーベキュー
11月9日	会館生、緑町宿舍例会
11月11日	奨学生例会
12月10日	年忘れパーティー
1月12日	奨学生例会

1月18日	会館生、緑町宿舍例会(新年会)
1月31日	奨学金応募締め切り
2月9日	奨学金支給日(例会はなし)
2月15日	会館生、緑町宿舍例会
3月9日	奨学生さよならパーティー
3月21日	会館生さよならパーティー

みなさん、来てくださいネ!